

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2017年9月22日

[テーマ] 農家の飽くなき努力—高品質と豊かな景観—

先日、伊勢崎にて農業視察の機会をいただき、ナスの農家やコマツナを栽培する農業生産法人、新しくできた選果場や地元農産物の直売所を訪れた。天候や害虫との戦い、生産効率を上げるためのさまざまな工夫、その底流にあるおいしい野菜を作り、消費者に届ける熱い思いを垣間見る貴重な経験だった。

休みの日には、孺恋村のキャベツ畑や昭和村のコンニャク芋畑の景観を楽しんだ後、採れたての野菜を使ったグルメを堪能した。近所のスーパーでも県内農家の写真のもとに、野菜が並んでいるが、普段から地産地消ができるのはありがたい。

以前、香港に暮らしていたとき、スーパーには日本から輸入された野菜や果物も並んでおり、文字通り輝いて見えていたが、それは品質、安全性そして味と全ての面で地元産を上回っていたからである（空輸されているので値段は張ったが）。世界的にみてもわれわれが日本で普段口にしてしている野菜の品質は極めて高いものだ。それでもさらに品質を高める飽くなき努力が当地の農家で続けられているのはその強さの源泉だろう。実際、農業経営者が、気候や土壌の条件に最適な栽培システムを開発したり、ユニークな加工技術や流通システムを導入して成功している例がある。他の業種から新たに農業に参入した経営者が、一味違った発想を生かして、栽培した野菜を健康サプリメントとして商品化してヒットさせていたりもする。

農業の商業的側面とは別に、見渡す限りの作物の広がりや、耕作されている土地の様子をみると、あらためて自然に生かされていることを感じ、気持ちが和むものだ。農地の織り成す景観の豊かさも訪れる人にとっては大切な側面なのかもしれない。

〔 日本銀行前橋支店長
岸 道信 〕